

# Alert 反天皇制運動 49号

[通巻 431 号]  
2020 年  
7 月 7 日発行

第 49 期・反天皇制運動連絡会

今春 3 月の 12 日以後の予定を全部キャンセルして、その後 6 月いっぱいの閉じ籠りとなった。超高齢と病人との暮らし故、外出禁止を守るしかない。家の近くを廻って咲き始めた草花の写真を撮るばかりの日々となった。それくらいではとても歩数は少なく、運動不足は解消されない。急速に足腰が弱ってきた。TV のニュース系の番組ばかり見ては不健康な怒りを膨らませるだけ。

オリンピック・聖火リレー反対や沖縄関連、天皇家行事反対などに仲間たちが体を張って活動してるのに、同じ気持ちだとよくよく思いながらも何の役にも立たない。怒りがこみ上げてきても長続きしない。TV で流れていくものと同じようにサラサラ過ぎていく。中心で動かなくても、集会に参加したり、小さくとも働いたりするときのようにカッカと燃え続けていけないのだ。議論していくうちにお互いの思いは深まる。官憲の規制を受けることで、彼らのやり口や本性も見えてくる。こんな当たり前のことがつくづく判ってきた。

2020 年はオリンピック反対を中心にした闘いの年と予感して始まったが、予想は甘かった。オリンピックは目前からは去ったが、思いもしなかった病魔の流行。住民を蔑ろにした施政の実態が次々と白日の下に見えてきた。病院が、保健所が、医療従事者がこれほど軽視されていたとは。私たちは国防費が確実に高騰していることを言ってきたけれど、どこを削って廻しているのかを、少なくとも私は追及してこなかった。

イージスアショアに代わるものに、辺野古の埋め立てに、注ぎ込み続ける政策に否を言い続け、住民を大切に！を、籠り屋のうちからも叫びたい。(津田凌子)

今月の Alert ●「コロナ状況が照らし出した差別と暴力に私たちの側からの歴史の再審を」——\*2

反天ジャーナル ●——つるたまさひで、桃色鰐、天皇飛蝗\*3

状況批評 ●対韓貿易規制措置一年、新型コロナウイルス、そして内なる帝国主義意識——李泳采\*4

書評 ●北村小夜『慈愛による差別』——由香子\*6

太田昌国のみたび夢は夜ひらく(121)

●香港での民衆鎮圧に思うこと——太田昌国\*7

マスコミしかけの天皇制(48) (壊憲天皇制・象徴天皇教国家) 批判 その 13 ●

二つの「緊急(非常)事態」状況をどうふまえるのか——天野恵一\*8

野次馬日誌\*9 集会の真相\*10 学習会報告\*11 反天日誌\*12 集会情報\*12



250 円

●定期購読をお願いします(送料共年間 4000 円)

●郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス

東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A 淡路町事務所気付 落合ボックス

TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://www.ten-no.net/mail:hanten@ten-no.net>

●以前の情報はこちら ▶ <http://hanten-2.blogspot.jp/>

今月の

Alert

# コロナ状況が照らし出した差別と暴力に 私たちの側からの歴史の再審を!



新型コロナウイルス感染症の世界的な蔓延は、それまでも耐えきれないような腐敗状況にあった政治体制に、思いがけない方向、しかもさまざまな方向や視点からスポットライトを浴びせて、これによる社会の変化を誰の目にも明らかにさせてつづつある。

また記憶に新しい原発事故のときにも問われた、科学や技術、技術者と、経済・社会政策の問題は、疫学や医療と医療関係者との関係の中で、さらに身近なものとして浮かび上がっている。生活者のそれぞれが、強い不安と怒りを内面化させつつ「日常」に閉じ込められている。その一方で、日銀の株や国債オペに典型的なように経済はキャンセルや投機的な性格をより強め、それを補うかのごとく、「新自由主義」が「確かな」縁故や利権に基づいた「縁故資本主義」として隠微に広がっていることも、露わになってきた。自民公明と維新による議会「政治」は、官僚と特定企業グループとの結託や、権力を掌握した「政治家」によるさまざまなレベルでの買収工作と深く結びついていることが、あまりにも数多くてあげつらうことも疲れてためらうほどにはつきり示されてきている。

国家や社会の大きな変動のうねりをこのかん感じさせる事態として、五月二五日、アフリカ系アメリカ人のG・フロイドがアメリカのミネアポリスで警察官に首を抑えつけ締められて殺されたことに端を発した、全米から欧州など世界にも波及している抗議行動の広がりがある。アメリカで繰り返されてきた構造的な人種差

別に基づく暴力は、とりわけ「白人」警察官による問答無用の拘束・逮捕や暴行としてこれまでもきわめて頻繁に繰り返されてきた。公民権運動の指導者や活動家に対するテロは、公民権が一九六四年に成立したのちも、なお警察官による不当な検問や暴力として常態化しているという。「カレード」の居住区が歴然としたかたちで続き、貧困と犯罪が社会的なステイグマとして住人たちに刻みつけられてきた。「微罪」でも逮捕され、司法の場すらないまま簡単に有罪となつて刑務所での服役を強いられ、危険な「前科者」「犯罪者」その「予備群」として社会的に裁断され続ける存在とされた。アメリカでは、最近の統計でもアフリカ系アメリカ人の刑務所への収監は「白人」の五倍以上で、長期刑の受刑者を対象とする矯正施設は八〇年代から州によつては民営化されて巨大な利益を生むビジネスとなつている。今回の抗議行動においてクロースアップされた「#BlackLivesMatter」、BLM運動は二〇一三年〜一四年に起きた警察官による「黒人」の射殺からはじまったが、そのことは、これらの事態がオバマ政権下でも緩和されず、トランプ政権下で拡大したということを示明かにしている。

BLM運動は、いま、アメリカの奴隷制の歴史や、さらに、ヨーロッパによるアフリカの収奪と植民地化に対する厳しい再審を求める声や行動としても高まっている。大日本帝国の成立史は、こうした欧米の植民地政策史に同時代的に連なっており、日本のアジアにおける侵略と

植民地化、戦争の歴史は、いまでも謝罪されず償われることのないままにある。その過程において、天皇制、天皇や皇族そしてその権力を行使してきた者たちが果たした役割は、あらゆる機会をとらえて厳しく批判されなければならない。侵略者や植民者、奴隷制を代表する連中の「銅像」が引きずり倒される光景を、このかん何度も報道で目にしたが、私たちの側からも、その歴史的意義を見つめなおそう。東アジアの独裁国家体制に日本が果たした役割は重大だし、彼現在の姿はますます相似しているのだから。

いま私たちは、毎年の八月一五日の反靖国行動に向けた準備に取り組みを開始している。今回は、前段集会として、こうした政治状況と正面から向き合いつつ「コロナ危機と天皇制」と題した集会をもち、北村小夜さんに「慈愛・慈恵」と天皇制について語っていただく。この問題では医療現場からも重要な問題が指摘されており、そこからの報告も予定している(集案案内参照)。川崎市ではヘイトに対する罰則付きの条例が有効となったばかりだが、いま、東京では、悪質な歴史偽造を重ね、朝鮮人虐殺の事実を否定する連中に宣伝の場を提供してきた小池百合子を含め、極右のヘイト活動家らが都知事選挙の場で差別発言を繰り返している。これに靖国派の極右団体を加えた連中の攻撃のなか、八月一日にはまた集会とデモを展開する予定だ。しかし、糾さねなければならぬのは歪みきつた靖国・天皇主義者たちの認識であり、暴力そのものの政治体制である。私たちは退かない。(編者)

「警察解体！」日本でも

バッタの大群来襲は天皇の不徳？

日本では、本来の意味での蝗害はないが、「(天)皇害」はここ数年、そうとうに酷い。(天皇飛蝗)

# 状況批評

思想・状況批評

## 対韓貿易規制措置一年、新型コロナ、そして内なる帝国主義意識

李泳采（いよんちえ／恵泉女学園大学教授）

戦後最悪の日韓関係といわれて久しい。このような事態悪化の原因は何だろうか。昨年二〇一九年七月、大阪G20会議の直後、日本政府は韓国に対して半導体関連製品三つに対する輸出規制とホワイトリスト排除を決定した。韓国側の戦略物資管理の法体系が不備で、管理人員が少なく、日韓の間に三年間担当部署間の協議がなかったことがその理由だった。しかし、発表直後に世耕弘成前経済通産相や安倍首相も認めたように、突然の韓国への貿易規制措置は、二〇一八年一〇月、韓国最高裁による強制徴用工に対する日本企業への賠償判決への対抗措置であった。G20首脳会談の場でも事前協議が可能な問題であったにもかかわらず、一方的な輸出規制措置の発表に、韓国社会は当然強く反発した。

日本の保守勢力は、戦後最悪の日韓関係になったことの責任は徴用工への賠償判決を引き出し、「反日政策」を実施している文在寅政権にあると主張している。このような主張は事実だろうか。最高裁による強制徴用工への賠償判決は、李明博保守政権下の二〇一二年、最高裁が「65年解決済み」の原審を破棄して、日本企業の賠償責任を再検討させたことが発端となった。二〇一三年、朴槿恵保守政権の時、ソウル高裁は結局日本企業への賠償判決を下した。日韓関係の悪化を懸念した朴槿恵政権は、このときから司法機関の人事にまで介入して、最高裁の最終判決を棄却させようとした。結局、これは権力が司法に介入した司法波動問題に発展し、二〇一七年のキャンドル市民革命によって司法機関も改革の対象となった。

文在寅政権の登場以降、辞任した最高裁の判事らが補充され、日帝植民地時期の強制徴用工に対する日本企業の賠償判決が確定された。これは二〇一三年に予定されていた最高裁の判決が五年過ぎて原審通りに確定されたものに過ぎない。朴槿恵政権が司法介入をして判決を変えようとした行為が国民の弾劾対象となってしまっただけに、文在寅政権は司法の判決に仮に

介入をしなくてもできない状況となった。弁護士出身の文在寅大統領は、「司法の判決を尊重する」という立場を打ち出すしかなかった。

日本の保守勢力とメディアは、植民地支配問題は六五年の日韓基本条約によってすでに「最終的に完全解決」された問題であり、韓国は「国際法を守らない国」だと批判している。韓国側が破ったという国際法が具体的に何かは別にして、韓国の最高裁が何を決めていたのか、その中身をもっと理解する必要がある。最高裁は、六五年の日韓基本条約は、両国が分離されることにおいて相互の財産権を整理したものであり、請求権交渉には三五年間の不法強占期（植民地期）に行われた強制徴用工への反人道的犯罪及び人権侵害は含まれていないと判断したのである。

ベトナム戦争と冷戦の影響の下、米国の圧力の中で、日韓両政府は被害者に対する十分な調査もなしに請求権協定を妥結した。一九六五年当時、日韓両政府は請求権交渉を植民地支配に対する謝罪や清算ではなく、経済協力方式で妥協した。経済協力基金の性格について、韓国政府は、日本政府との請求権交渉による賠償金の意味があると説明し、日本はただの独立への祝い金だと説明したのだ。日韓基本条約はそもそも、個人の被害に対して実質的に賠償する条約ではなかった。植民地支配の不法性を認めていない日本政府が、日韓条約ですでに植民地支配に対する請求権交渉が「不可逆的に終わった」という主張そのものが矛盾している。最高裁の判決は、六五年の日韓基本条約で日本の植民地支配の問題を清算できなかったという限界を韓国司法機関が初めて指摘したことで、日韓関係のみならず、戦後東アジアのあゆみという視点からも画期的な判決であったと言える。

日韓関係改善の最大の障害になっている強制徴用工への賠償問題は、解決不可能な課題なのだろうか。昨年六月、文在寅政権は強制徴用工賠償判決に対しそれなりに効果的な案を出した。韓国政府案の特徴は、次の通り。

①現在進行中の判決（三件）については、当事者間の対話を可能にする。  
 ②追加の訴訟と賠償判決については、両国政府と関連企業が2+2の方式で解決する。日本政府の関与については、すぐにはなく時間をかけて待つ。  
 ③日本政府には謝罪を求めている。この案は当事者たちからも同意を得たものだった。

この文在寅政権の案は、日本側にも十分に利害があるにもかかわらず、「検討の余地もない」と安倍政権は一蹴した。そして、同年六月三〇日、板門店で南北米首脳の場合が実現されると、まるで南北米関係の進展にくさびを打ち込むかのように翌日の七月一日、韓国に対する輸出規制措置とホワイトリスト排除を一方的に発表したのである。

『朝日新聞』の報道によると、当時首相官邸では、どうせ対応措置をするには、相手の急所を突かなければならないとし、韓国の最重要輸出分野である半導体の部品を狙って規制をかけたという。しかし、韓国では、一方的な日本の貿易規制措置を「第二の植民地経済侵奪」と規定し、日帝時代の義兵活動のように全国で不買運動が起きた。日本の保守メディアは韓国の不買運動は、短期的で一時的なものであり、管制動員だと貶めた。しかし、韓国内では多様な分野で、自発的で、全国規模の持続的な不買運動が展開された。

一年が過ぎた現在、日韓の経済状況を見ると、観光客は七〇％減少し、北海道、沖縄、九州などの地域経済に大きな影響を及ぼした。貿易規制措置一年を総括する『日経新聞』『東京新聞』『朝日新聞』の報道によると、半導体三部品の輸出規制措置により、当該の日本企業は三〇〜四〇％の赤字状態となった。反面、韓国側はむしろフッ化水素などを国内製造に成功し、部品産業も脱日本化を目指している。文在寅政権は、中小企業の部品製造分野に大々的に支援策を発表しながら、「二度と日本に負けない」と崛起を示し、支持率を強化した。

韓国の急所をつくると、韓国経済は悪化し、短期間に降伏するという日本の右翼政治家たちの認識は、二つの事実を見逃している。一つは、韓国はすでに一九九七年の経済危機をもたらすような弱い経済構造でなく、米国をはじめ世界二〇カ国以上とFTA（自由貿易協定）を締結しているグローバル経済構造にどの国よりも広く編入されている。日本に対する経済依存度は、一九六五年に比べて一〇％程度にすぎない。むしろ、中国への依存度は、米

国と日本の貿易量を合わせたものよりも多い。

第二に、サムスン、現代、SK、CJなどグローバル企業の成長と『BT S』、『パラサイト』、『愛の不時着』などNetflixをはじめ、映画、ドラマなどの韓流の多様な文化コンテンツ産業は、日本を先んじて世界のマーケットをリードしている。さらに、新型コロナウイルスの防疫体制でも見られるように、韓国は最先端のITインフラや医療技術に基づいて、全国的官民協力体制を持って、いわゆる「K-防疫体系」を確立し、WTOにより世界的なモデルとしても提示されている。米国議会の新型コロナに関する聴聞会で、韓国のK-防疫に対して二〇以上の質問が出てくるほど、最先端分野における韓国経済はすでに日本と同等の競争ができるレベルに成長したのである。

3・11以後、日本はもう帝国主義でもなく、アジアをリードする経済力も政治力も持ち合わせていないことが露呈してきた。在日米軍に安全保障を依存し、開発と動員による戦後の国家モデルは、戦前の軍国主義モデルと大きな違いはなかった。3・11は、このような戦後の国家モデルから脱して、脱原発・脱基地に基づく新しい国家建設のチャンスともみられた。しかし、日本社会はオルタナティブ社会への転換の道より、「強い日本を取り戻す」という安倍政権を支持することで、すでに失敗を経験していた戦前的大日本帝国主義の亡霊を復活させる道を再び選択してしまった。

安倍政権が、徴用工賠償の問題に対して、植民地支配の未精算課題に向き合うことでなく、韓国経済の急所を狙う形の経済報復措置をとったのは、戦前の植民地宗主国の意識から朝鮮半島を見下している帝国主義の優越意識にすぎない。その意味で、ポスト安倍の政治家は、誰が首相になろうが、対韓貿易規制措置を撤回し、日韓協力による強制徴用工賠償問題と日本軍慰安婦問題を解決することができるかどうか、ポストコロナ時代の日本のあり方を決める重要な要素になるだろう。成長していくアジア諸国に対して平等な認識を持って、相互協力を通じて、アジアの平和の一員になる時、日本社会でも真のオルタナティブ社会への道が見えるだろう。日本の安全保障を脅かす最大の脅威は、中国の台頭も、北朝鮮の核とミサイルも、文在寅政権の反日政策でもなく、いまだに解体されていない日本の「内なる帝国主義意識」である。



## 北村小夜『慈愛による差別』

——梨の木舎 二〇二〇年四月五日 本体2200円＋税

この原稿の締切日が、強制不妊手術に対する国賠訴訟判決日だった。一九五七年、一四歳の時に説明なく不妊化された北三郎さん（仮名）が原告。二〇一八年の新聞報道で自分の手術は優生保護法に基づいてやられたのか？と初めて知った北さんの「私の体を元に戻して、国はちゃんと謝ってほしい」という訴えを棄却する判決だった。

この裁判長は、期日で毎回こう言っていた。「裁判長の伊藤です。この法廷では手話通訳、車いすや介助者のスペース確保を許可しています。障害をお持ちの人もお持ちでない人も、分け隔てなく傍聴できるように理解をお願いします」

障害者に配慮した裁判をめざしているような態度だったが、今回の判決で、私は北村小夜さんの本の記述を思い出した。

「分際をわきまえている間、人々は褒めたり、励ましたり、同情したりするが、一たん共に生きようという姿勢をみせたとたん、厳しく拒まれ」る。

判決文の最後の言葉にある「疾病や障害の有無により分け隔てられることのない社会の実現」のために法廷での配慮はするけれど、訴訟を起こした原告の「国は優生手術は間違だったと謝ってほしい」という訴えは、もっと早く訴訟を起こせばよかったのに、除斥期間の二〇年を過ぎてしまったからと、情け容赦なく、厳しく拒むのだ。

小夜さんの言葉が収められている『慈愛による差

別』は、一九九一年に軌跡社から刊行された。あれから約三〇年、「驚くべきことが立て続けに起こり」さらに「驚くべきことに驚かない」ようになっていく現状への危機感から、道徳、パラリンピック、教育勅語に関する新しい文章を加えた新装増補版が出た。

北村小夜さんは、戦争中、軍国少女へと「つくられた」という。「クラスも男女別だし、女は損ばっかりしているのに、孝行と忠義だけは同じにしろとは合わないなあ」と感じる小学生が、戦争が激化するにつれ、「女でも直接お国の役に立てる時がきた」と、日本赤十字社救護看護婦に応募し、朝鮮の京城養成所に赴く。

日本に引き揚げてからは「なりゆきで」教員になり、養護学校で長く働いてきた。障害をもつ子どもたちが、地域や学校から締め出される現実を変え、排除の仕組みを明らかにしてきた実践も、本書に書かれている。

小夜さんが小学生の時、明治天皇が立ち寄った場所（聖域）に遠足で出かけたこともリアルに覚えている。当時、裕仁の五人の子どもはすべて女子で、男は皇太子が待たれていた。誕生の時には一分間のサイレンが鳴り、もし男だったら一〇秒おいてもう一度鳴ることになっていた。一九三三年二月三日、もう一度鳴ったサイレンを聞き、興奮する大人たちの中で、小夜さんもバンザイを叫んだという。

このように小夜さんの人生をチャリチャリと垣間見せながら、戦前の教科書や副読本で、皇族がどう扱われ、日本赤十字がいかに天皇制と密着しているか、障害者がどう描かれているかを明らかにしていく。新装増補版は、発行元である梨の木舎の好評シリーズ「教科書に書かれなかった戦争PART10」に位置付けられているのも、納得できる。

戦前の天皇制と戦後の象徴天皇制、教育勅語や国定教科書と「心のノート」↓道徳の教科化、オリンピックや国体の警備の過熱ぶり、一九四五年を境に変ったことと、続いていることが明示される。人権や平和、平等という、ある意味で当然のはずの諸々が、この三〇年で後退し崩れている様子に、改めて息をのむ。恐ろしい。

忖度と同調圧力、弱いものいじめはずっと存在した。それに加え、東日本大震災と原発事故、五輪誘致で自己責任、自業自得ムードがさらに強まっている。その延長線上に、津久井やまゆり園での殺傷事件があり、新型コロナウイルスで、持たざる者はさらに奪われる現実……。

だが、落ち込んでばかりもいられない。冒頭の優生保護法で言えば、裁判では障害の有無や状況も色々、共通するのは「不良な子孫」とレッテルを貼られたことという被害者が声をあげ支援の輪も広がっている。「驚くべきことに驚く感性を失ってはいけない」という小夜さんの言葉を大事にしたい。（田香子）

みたび

# 太田昌国の夢は夜ひらく 121

## 香港での民衆鎮圧に思うこと



中国の立法機関である全国人民代表大会（全人代）常務委員会が六月三〇日、香港での反体制的な言動を取り締まることを目的とした「香港国家安全維持法」（国安法）を成立させ（一六二人全員が賛成）、即日施行された。国安法で裁かれる犯罪は四種類で、「国家分裂」「政権転覆」「テロ行為」「外国または域外勢力との結託による国家安全危害」が、それである。いずれも主犯や重大な罪については最高無期懲役が一〇年以上の懲役、軽くても三年以下の懲役か刑事拘留が課せられる。「国家の廃絶」こそは、共産主義の窮極の理念だったのではないかという原理的な突っ込みも、もはや虚しい。香港独立論の台頭、昨秋の区議会選挙での民主派の圧勝、来るべき立法会選挙での敗北への怖れ——習近平指導部は、自らの権力基盤を脅かす目先の諸情勢に一喜一憂するだけで、「百年の計」を設計する歴史哲学を欠くのだらう。

いまから二三年前の一九九七年、一五〇年有余ものあいだ英国の植民地であった香港が中国に返還されたことには、深い感慨をおぼえた。一九世紀半ば英国のアヘン戦争に始まる欧米列強による中国蚕食の歴史を、否応なく振り返らざるを得なかったからである。その歴史過程には、時代

的にいって、欧米列強の路線を踏襲することでアジアに敵対しそこを侵略した、開国↓明治維新以降の近代日本の歩みも重ね合わせてみることになるから、その思いは内省的かつ幾重にも重層的なものとなった。翻って鄧小平下の北京政府も、返還後五〇年間は香港に一定の自治権を付与し、本土（中国大陆）と異なる行政、法律、経済制度の維持を認める「一国二制度」を国際公約にするだけの〈余裕〉を見せた。もちろん、そこには、世界でも有数の貿易・金融センターとして香港が栄え、欧米と日本からヒト・カネ・モノが行き交うことで経済発展が保障され、もって本土の社会主義体制の維持が可能になるという〈計算〉もはたらいたことだらう。

国安法が制定されたと同じ日に、中国をめぐるもうひとつ重要な報道が流された。国際調査報道ジャーナリスト連合（ICJ）が入手し公表した、中国・新疆ウイグル自治区におけるウイグル人に対する弾圧政策をめぐって、である。それによると、当局はウイグル人など少数民族の女性に対し、既定の人数を超えた妊娠の中絶を促し、それを拒否した場合には罰則として再教育施設への強制収容を科すと警告したり、子宮内避妊具の装着を強制したり、不妊手術を強要したりして

いるという。独立運動派のウイグル人強制収容施設に関する情報も絶えることはない。

自称社会主義諸国（この場合はソ連）における強制収容所問題は、一九五〇年代初頭のフランスでも、サルトル、カミュ、メルロー・ポンティらを巻き込んだ論争となった。収容所の存在を認めるか、認めるとしても植民地問題を抱える自国のことを棚上げにしたまま、ソ連を非難してよいのか——論点はいくつかあった。後世の私たちにとって、答えはもはや自明のことだ。長年にわたって続く日本の現極右政権は、社会全体に根を張った情緒的な右翼的心情に支えられている。「自己破産」したはずの社会主義の旗を未だに掲げて、しかも強制収容所を持つ中国と北朝鮮は、彼らにとって格好の攻撃目標である。かつての植民地支配と侵略戦争の事実を「いつまでも」持ち出す両国への憎悪にも掻き立てられて、その暴力的な言動は留まるところを知らない。

植民地支配と侵略戦争に関わる未清算の責任を問いつける者にとって、主体的的確な中国論・香港論・北朝鮮論（加えて言えば、枠組みが異なるが、韓国論）を持つことの重要性は、ここでも明らかに。拉致問題が社会的に浮上したときに、私たちの側からの拉致論・北朝鮮論・植民地論が質量ともに決定的に不足していたことが、その後の夜郎自大な排外主義的言論の台頭と極右政権の誕生を許した。この〈食〉の経験を、香港論で繰り返してはならない。〈嫌中〉意識に塗れた香港論に言論空間を独占させてはならない。

（七月四日記）

天の皇子  
ミコノミコ  
ミコノミコ  
48

## 「壊憲天皇制・象徴天皇教国家」批判 その13 二つの「緊急（非常）事態」状況をどうふまえるのか

天野 恵一  


新型コロナウイルスの国内感染者七月三日午後九時現在、新たに二二九人、東京はついに一〇七人と、一〇〇人を超えた前日に続いて、二二四人、隣接する埼玉、千葉、神奈川の三県でも計五九人。感染拡大はとめられない状況である実態が明らかになりつつある。

「経済活動」のほぼ全面再開。全国の通行が自由化された結果がもたらした結果であることは明らか。東京都や政府は「夜の街」関連の検査の拡大こそが主因だから、以前の時と同じレベルで考える必要はないと、しきりに強調しているが、状況を判断する基本的な指標として連日発表され続けてきた数が、検査の数（分母）が大きくなれば拡大するのはあたりまえだとすると、やっと検査を拡充したから、数は増加します、では、検査をしほり続けてきた間は、数を少なくする操作をし続けて「安心」「安全」を政治的に演出していただけであることを告白しているだけではないか。

PCR検査が圧倒的に少ないことが外国からも注目され批判されてきた日本。一貫して「数」操作インセンキに不信を強く持っていた私は、この「自由」局面で、不信と不安は強まるだけである。とにかく再開した経済活動を維持し続けたいという政治意思のみが前面化し、地域や職種を特化した検査体制の具体的拡充や手厚い休業保障を

通した感染防止策の展開というあたりまえの戦略がよく見えない、政府と都府。

とてつもない「不安」をかかえたままの生活・活動は、まったく出口の見えないまま、さらにさらに続くことを覚悟しなければならぬまい。こうした政治への批判活動は私たちには不可欠なものだから。

原発事故の際の避難計画（防護措置）には新型コロナウイルスの「三密対策」が盛り込まれていないことに政府はまともに対応していない。内閣府は「事故の収束」優先を語るのみ、危険な収束作業自体が、コロナ状況でさらに危険なものになっており、電力会社の社員や作業員の感染者は増えている。

六月一八日の『東京新聞』には「新型コロナウイルス感染拡大中の今、原発の即時運転停止を求める」「日本科学者会議」の声明が紹介されている。原発事故は放射能からの防護のため、「密室」をつくり、そこでの作業を必然化する、閉鎖空間での作業やそこへの避難が、「感染爆発」の修羅場をつくりだすと、その声明は訴えている。あたりまえの危惧である。この状況下では、再稼働しているすべての原発をストップさせるのは、政府の義務である。こつした声を全国の反原発運動がこぞってあげる必要が、今こそあるのだ。

福島原発告訴団の武藤類子は「とめよう！東海

第2原発首都圏連絡会」のニュース（4号）の二つの『緊急事態宣言』の中で私たちが生き延びるのは『真実を知り、助けあう』こと』で以下のよう主張している。

「新型コロナウイルス感染拡大という事態は、既に『原子力非常事態宣言』が発令されたままの福島にもう一つの『緊急事態宣言』を重ねることとなった。それは原発事故を経験した被害者にとって、当時の多くのことを想起させる。外には出ない、マスクをする、必死で情報を探す、迫り来る不安と闘う。コロナ感染が広まった初期の頃は心的な抑圧がとても大きかった。／でも、次第に『原発事故』と『コロナ感染拡大』は、共通のことと違うところがあることに気がついた。政府は人々がパニックを起こすのではないかと恐れ真実を隠す、検査をなるべくやらす正確な罹患者を明らかに矮小化する。場当たり的な政策で最も弱いものが犠牲になる。専門家の意見が政治の力で曲げられる、惨事を利用した便乗型の資本主義が利権を求めて台頭することなどが共通点だ。／違つところは、感染拡大のスピードが速く被害が分かりやすい、コロナ禍の当事者は日本全体であり、圧倒的に多い、突然の休校要請や検察庁法改正案の時のように、政府が法と権限を無視して強行することへの国民の抗議が大きく現れてきたことだ」。

8・15の反靖国行動へ向けて動き出している私たちの反天皇制運動も、二つの「緊急（非常）事態」が重ねられている状況下の行動であることの歴史的意味を十分ふまえたものでなければならぬまい。

# 野次郎日記

6月1日～6月30日

【6月1日】

彬子◆故寛仁の長女が、「市村清新技術財団」の総裁、「古典の日文化基金賞顕彰委員会」の名譽総裁に就任。

【6月2日】

徳仁、雅子◆雅子が皇居内の紅葉山御養蚕所で、「族」と呼ばれる網に、成長した蚕を移して繭作りを促す「上族」の作業をする。徳仁が作業を手伝う。マスク姿の雅子が、徳仁とともに車で半蔵門から皇居へ入った。

皇居◆新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、3月28日から休園していた皇居・東御苑が一般公開を再開。2月29日から休館の三の丸尚蔵館も開館。

【6月3日】

徳仁、雅子◆赤坂御所で東京都葛飾区保健所の清古愛司所長らと面会し、新型コロナウイルスの感染拡大防止に向けた保健所の取り組みについて説明を受ける。

靖国神社◆靖国神社の公衆トイレに中国湖北省武漢市の人を「皆殺しにしよう」と落書きしたとして、警視庁麹町署が、建造物損壊などの疑いで男性を逮捕。男性は、「ネット右翼」に反感を抱いていたといい、ネット右翼を想像させる落書きによっておとしめる効果を狙ったとされている。

【6月5日】

8・15追悼式◆政府が、戦後75年となる

当年8月15日の全国戦没者追悼式について、新型コロナウイルスの感染を防ぐ観点から規模を縮小する検討に入り、参列者数を大幅に削減する可能性があること、政府関係者が明らかに。

【6月6日】

表現の不自由展◆愛知県知事が委員長長の芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」の実行委員会が名古屋市内に未払いの負担金約3300万円を求めて提訴したことに対し、日本国史学会が「法的根拠を欠く」として取り下げるべきだとの声明を発表。同学会は、明治天皇の玄孫で作家の竹田恒泰らが発起人となり2012年に発足したもので、東京都内で記者会見した代表理事の田中英道・東北大名養教授が、昭和天皇の肖像を使った作品を燃やす映像などを「政治的主張に過ぎない」と述べる。

【6月10日】

徳仁、雅子◆改修工事中の皇居・旧吹上仙洞御所を初めて視察するため、皇居を訪れる。マスク姿で半蔵門から車で入る。

「皇室行事」◆宮内庁が皇室行事の再開を見据えて新たな在り方の検討を始めた。宮内庁の西村泰彦長官が5月21日の定例会見で、緊急事態宣言解除後の徳仁と国民との触れ合い方について問われ「今までのような形は当分難しい」と話す一方で「何らかの形で工夫してやっていく」

と述べ、再開後の行事の在り方について検討していることを明らかにしていた。

【6月11日】

徳仁◆ライフワークとする「水問題」と新型コロナウイルスの関わりについて、政策研究大学院大の広木謙三教授から進講を受ける。

鹿児島県国体◆鹿児島県の三反園訓知事が県議会本会議で、10月3～13日に県内で開催予定だった第75回国民体育大会について、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で年内開催を断念する考えを初めて示す。一般質問で自民党県議から「今年の開催は100パーセントないという認識か」と問われ「そのように理解していただいて結構だ」。三重など2021～24年の開催地の4県が、延期する場合でも後続の開催地に影響のない対応策を検討するようスポーツ庁などに要望。

朝鮮人追悼式◆関東大震災の混乱の中で虐殺された朝鮮人犠牲者の追悼式を主催している団体に、会場となる都立横網町公園の使用許可を、東京都が今年に限って出さないのはおかしいとして、知識人117人が連名で声明を出す。別の個人が、使用許可を出すべきだとしてインターネットで集めた3万人の署名を都に提出。

【6月12日】

徳仁、雅子◆新型コロナウイルスの感染拡大が子どもに与える影響や課題について、日本保育協会の大谷泰夫・理事長や厚生労働省の渡辺由美子・子ども家庭局長から進講を受ける。

愛子◆宮内庁が、愛子が赤坂御所で小学

校時代から飼育を続けている蚕の写真を公開。

「信任状奉呈式」◆日本に着任後も「次期大使」の扱いにとどまっている外国の大使が、6人の上つていと報道。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、自国から持参した信任状を徳仁に手渡せないため、外務省によると、6人は、トンガ、ルワンダ、東ティモール、マリ、タンザニア、アゼルバイジャンの各駐日大使。

8・15追悼式◆厚生労働省が、新型コロナウイルス感染防止のため、戦後75年となる当年8月15日の全国戦没者追悼式を縮小して実施すると発表。開催場所を日本武道館（東京都千代田区）とすることや式次第は例年通りで、徳仁、雅子の参列も例年と同じく要請し、宮内庁と調整。

【6月13日】

神社本庁◆香川県琴平町の金刀比羅宮が、神社本庁を離脱する手続きに入った。

【6月15日】

議会開設130年式典◆衆院議院運営委員会が理事会で、帝国議会開設から130年を迎える11月29日に記念式典を開催すると決める。式典は、1990年の100年記念から10年ごとに開催し、天皇、皇后が出席して天皇が「お言葉」を述べる次第だが、関連行事である国会議事堂の特別参観は、新型コロナウイルス感染防止のため実施しないと報道。

【6月16日】

天皇、皇族◆「香淳皇后二十年式年祭の儀」が皇居・皇霊殿で催され、徳仁、雅子や皇族方が参列。眞子と佳子、香淳皇后

が埋葬されている武蔵野東陵（東京都八王子市）を拝礼。明仁、美智子の代理の宮内庁職員も参拝。

## 〔6月17日〕

**宮内庁参与◆皇室の重要事項について**天皇の相談役となる同庁の参与に、兵庫県立大理事長の五百旗頭真と前最高裁判官の寺田逸郎、元宮内庁長官の風岡典之の3人が18日付で就任。現在参与を務めている元宮内庁長官の羽毛田信吾ら4人全員が退任。

**愛知事不信任◆愛知県の太村秀章知事の解職請求（リコール）運動を始めた美容外科「高須クリニック」の高須克弥院長が、芸術祭「あいちトリエンナーレ2019」の企画展「表現の不自由展」のその後」に問題があったとして、大村知事の不信任決議を求める請願書を愛知県議会に提出。請願の理由について、不自由展に出版された昭和天皇の肖像を使った創作物を燃やす映像作品などを挙げ、記者団に「税金支出は県民への裏切り。議会も不信任の気持ちは同じだと思う」**

**鹿児島空襲◆鹿児島市で2316人が犠牲となった1945年6月の空襲から75年を迎え、遺族や市職員が市内にある慰霊碑に献花し黙とう。新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、市は参加人数を減らすなどして例年より規模を縮小したと報道。**

## 〔6月18日〕

**沖縄戦学徒追悼式◆太平洋戦争末期の沖縄戦に動員された沖縄県内21校の出身者らでつくる「元全学徒の会」が、最後の激戦地となった糸満市摩文仁の平和祈念公園で追悼式を開催。新型コロナウイルス感染症防止のため、代表者や元学徒ら約20人のみが参列。各学徒隊の名称を刻んだ碑が建立された3月14日に開催予定だったが、感染拡大を受けて延期していたと報道。**

**沖縄全戦没者追悼式◆安倍晋三首相が官邸で、沖縄全戦没者追悼式に向けたビデオメッセージ収録。**

**〔6月19日〕**  
**戦没者追悼式◆福岡大空襲から75年になり、福岡市が市社会福祉協議会と合同で「市戦没者追悼献花式」を市役所内で開き、**

参列した高島宗一郎市長ら4人が犠牲者を追悼。新型コロナウイルス禍を受け、例年それぞれが主催している式典の代替行事として、規模を縮小して開催。

**〔6月22日〕**  
**沖縄「慰霊の日」◆菅義偉・官房長官が記者会見で、沖縄県で23日の「慰霊の日」に開催される沖縄全戦没者追悼式に関連し「全ての戦没者に哀悼の誠をささげ、今後引き続き沖縄の基地負担軽減、振興について、一つ一つ着実に目に見える形で、全力で取り組んでいく」。**

**〔6月23日〕**  
**天皇、皇族◆戦後75年の沖縄慰霊の日を迎え、天皇徳仁、雅子と愛子が赤坂御所で黙とう。明仁、美智子が、仙洞御所で黙とう。**

**徳仁、雅子◆赤坂御所で、全国老人福祉施設協議会の平石朗会長らと面会し、新型コロナウイルスの感染拡大が高齢者の介護に与える影響や対策について説明を受ける。**

**沖縄「慰霊の日」◆沖縄県糸満市摩文仁の平和祈念公園で、県などが主催する沖縄運動、一坪反戦地主会、関東フロッツ**

ク、東京北部と沖縄を結ぶ会、「コロナを口実にしたヘイトを許さない」取り組みを展開している差別排外主義と闘う連絡会などが発言。デモ途中、正門前で、コロナ感染者を出しているにもかかわらず地域住民に対して十分な説明もせずに「三密」



## 6・13練馬駐屯地デモ&6・29防衛省申し入れ行動

.....

地運動、一坪反戦地主会、関東フロッツク、東京北部と沖縄を結ぶ会、「コロナを口実にしたヘイトを許さない」取り組みを展開している差別排外主義と闘う連絡会などが発言。デモ途中、正門前で、コロナ感染者を出しているにもかかわらず地域住民に対して十分な説明もせずに「三密」

状態での活動を「自粛」することなく続けている第一師団への抗議の申し入れを行った。昨年从小銃を携えた隊員が警備に当たっているが、申し入れの際には姿を消していた。昨年、小銃携行に抗議したからか？

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

縄全戦没者追悼式が営まれる。玉城アニ知事が平和宣言で、人類史上他に類を見ない惨禍を経験した被爆地の広島、長崎と「平和を願う心を共有する」と訴える。新型コロナウイルスの影響で規模を縮小して安倍晋三首相の招待は見送る。

**〔6月24日〕**  
**徳仁◆皇居・宮殿「松の間」で、新任の駐日外国大使が本国から持参した信任状を受け取る「信任状奉呈式」に臨む。徳仁を含めてマスクの着用を徹底し、徳仁と大使との握手は取りやめた。**

**〔6月26日〕**  
**全国育樹祭◆北海道が、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、10月に開催予定だった全国育樹祭を翌年秋に一年延期することが決まったと発表。道と育樹祭を共催する国土緑化推進機構の理事会で決定。2021年以降の開催地の大部分、茨城県についてもそれぞれ一年延期。**

**〔6月29日〕**  
**秋篠宮、紀子◆結婚から30年を迎えたが、「お祝い行事」は開かないと報道。**

状態での活動を「自粛」することなく続けている第一師団への抗議の申し入れを行った。昨年从小銃を携えた隊員が警備に当たっているが、申し入れの際には姿を消していた。昨年、小銃携行に抗議したからか？

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

北部、立川自衛隊監視テント村、パトリオットミサイルはいらない！

習志野基地行動実行委員会、武器取引反ネットワークが集まる「大軍拡と基地強化にNO！アクション」は、

6月29日に、「陸上自衛隊オスプレイ来るな！木更津 緊急防衛省申し入れ行動」を行った。どここの空にもオスプレイはいらない@船橋、市民ネットワーク千葉県、6・6横田基地反対集会、デモ実行委員会、辺野古新基地建設を許さない！実行委員会などの発言を受け、陸自オスプレイ移送中止などを求める申し入れを手交した。参加者は緊急にもかかわらず約50名。

イージスアショア断念に続き、大軍拡と基地強化を止めていきたい。今後の取り組みへの参加を訴える。

## 【学習会報告】

### 山本太郎『感染症と文明——共生への道』（岩波新書・二〇一一年）

『ミニック』と言った怪物映画がある。虫を媒介とした感染症の猛威に人類はその虫を捕食する虫を開発、虫ごと感染症の根絶に成功するが捕食した虫が怪物化して人類を襲う話だ。こう書けば誰もが、虫ごと感染症の根絶なんて、やっぱり怪物映画は乱暴で出鱈目だと思ふ。では感染症だけ根絶ならいいのか？現に天然痘は根絶されている。だが著者は、天然痘が消えたことによっ

てどんな影響が表れるかまだ分からないと言ふ。天然痘の存在が他の、より有害な感染症への防波堤だったかもしれない。

本書は文明によって感染症が人類に定着・拡大していく様を一万二千年前から現代まで、フィジーからヨーロッパ、アフリカを経てグリーンランドまでを舞台に多くの具体例で描く。病気を「ヒトの環境適応の尺度」と考えれ

（池田五律／有事立法・治安弾圧を許すな！北部集会実行委員会）

### 6・14コロナに乗じたヘイトを止める！アクション

六月一日、「コロナに乗じたヘイトを止める！」（第二弾）池袋アクションが七〇名の参加で行われた。連絡会では四月一九日に緊急事態宣言下の新宿で第一弾のデモを試みたが、あの頃の閑散とした日曜日の新宿に比べると、今回の池袋は以前と変わらない賑わいぶり、いささか拍子抜けの感あり。とはいえコロナで噴出した差別・ヘイトの問題はいまだ第二波の不安に怯える人び

とのなかに蔓延し、「新しい生活様式」なる「お上に従え」といわんばかりの息苦しい同調圧力がのしかかる。

今回はまず、池袋駅東口で通行人に向けての情宣。リレートークでは、朝鮮学校無償化連絡会、沖縄への偏見を煽る放送をゆるさない市民有志、ライブ自粛問題で東京都に情報公開請求を続けるAさんが、それぞれの思いを語った。続いて東池袋中央公園に移動して集会。反戦実行委、ヘイトを許さない練馬、たんぽぽ舎、争議団連絡会議の発言を受け、デモ行進へ。繁華街を回って公園に戻るコースだが、珍しく飛び入りの参加者がいたり、沿道の注目はその

ばヒトは農耕・定住に未だに適応していないとも考えられる。感染症はウイルスや細菌がヒトに適応する過程であり、幾つかの段階を経て最終的にはヒトから消えていく。身体から消えなくとも、潜伏期間が百年単位ともなれば感染しているだけで発症はない。それでいいのではないかと著者は言うのだ。私たちの国の首相のようにウイルスと「戦争」したがる者と対極の発想がここにある。他にも開発と感染症の関りや、植民地と医学の関りなど考えさせられ

なりに高いという印象だ。解散前にジャーナリストの安田浩一さんから挨拶。この日は、代々木公園で「ブラック・ライヴズ・マター」のデモ（三五〇〇人参加）と、渋谷駅前では日本第一党らのヘイト街宣に対する抗議力ウンターがあった。安田さんは渋谷の様子を報告されコロナ禍で起きてる事態に警鐘を鳴らした。朝鮮人虐殺否定論に同調する小池都知事をはじめ今回の都知事選にはレイシストが何人も並ぶ。それらを合わせた得票数は現時点では分からぬが、この危機的状況に臆することなく頑張りたい。（藤田五郎「差別・排外主義に反対する連絡会」）

る。西洋医学が近代科学足りえたのは熱帯感染症と出会ったからだとは。感想・議論はこの間の「感染症」をめぐる様々な事柄について行われた。そうした議論の前提として今回は脱線してこの本を読んでもいい。そろそろこの間の様々な事柄を集会なりいろんなやり方で検討すべきではないかと思っている。

次回は、御厨貴「天皇退位 何が論じられたのかーおことばから大賞祭まで」（中公選書）を7月21日に読む。ご参加を。（加藤匡通）

## 6・24見せしめ弾圧を許す な高裁結審

.....

一昨年一二月二日、靖国神社外苑で「南京大虐殺を忘れるな」という横断幕を掲げ、日本の侵略戦争と軍国主義に抗議した香港のグオ・シウギさんと、その行動を撮影し配信していたフリーランスジャーナリストのイム・マンワさんはその場で警備員の手で警察に引き渡された。二人は逮捕・起訴・一〇ヶ月に及ぶ拘禁の末、昨年一〇月、東京地裁でグオさん八ヶ月、イムさん六ヶ月、執行猶予三年という不当な有罪判決を言い渡された。たった一分足らずの抗議行動に対する過酷すぎる仕打ちだった。二人は直ぐに控訴し、先日六月二十四日、控訴審公判の第一回が開催された。

二人を支援する、「見せしめ弾圧を許さない会」では、この控訴審に向けて二人の無罪を訴える署名を呼びかけた。コロナ感染拡大で署名をお願いする機会が皆無の約一ヶ月間、郵送とウェブだけが頼りの署名は、五八一筆。泣きたくなるような筆数だが、ウェブではたくさんの方の意見をいただいた。心強い思いで、公判二日前の二二日、裁判所前でのアピール行動と高裁第五部刑事部に署名を提出した。

しかし、なんと第一回公判で結審。

次回判決を言い渡される。弁護団と許さない会は、判決まで諦めずに無罪を訴えていく。彼らは、侵略戦争も南京大虐殺もなかったという恐ろしく歪んだ日本社会の歴史認識に批判を突きつけた。その二人を見せしめるに弾圧する国家権力とそれに追随する司法を容認するわけにはいかない。彼らを有罪にすることで、この社会の歴史認識はまた一歩後退する。ともに声をあげていただきたい。

(大子)

## 八天日誌

6月13日(土) ●練馬駐屯地デモ(集会報告参照)

6月14日(日) ●コロナに乗じたヘイトをやめろ！自衛警察にNO！緊急アクション(集会報告参照)

6月24日(水) ●靖国見せしめ裁判控訴審(集会報告参照)

6月24日(水) ●おことわりリンクスタンディング

6月29日(月) ●オスプレイ来るな木更津要請行動(集会報告参照)

7月1日(水) ●香港連帯スタンディング

## 集合情報 INFORMATION

開催中 ●朝鮮人「慰安婦」の声をきく

13時〜18時(月・火・休日休館)

／WAM 女たちの戦争と平和資料館(地下鉄早稲田駅)／主催：同館

7月12日(月) ●復興五輪は大嘘だ！聞こう！福島原発事故被災者の声

17時30分／練馬区役所・地下会議室／武藤類子／主催：東京オリンピック・パラリンピックを問う練馬の会(連絡先：090-5208-5803)

7月23日(木) ●中止一択！東京五輪集会

13時30分／日本キリスト教会館4F会議室(地下鉄早稲田駅)／武田砂鉄、志葉玲／コメント：谷口源太郎、江沢正雄、ほかビデオメッセージ／主催：「オリンピック災害」おことわり連絡会(連絡先：080-5052-0270)

7月24日(金) ●中止一択！東京五輪デモ

17時30分／日本オリンピックミュージアム(JOC)前に集合(地下鉄外苑前駅、国立競技場駅ほか)／主催：「オリンピック災害」おことわり連絡会(連絡先：080-5052-0270)

8月1日(土) ●反「靖国」行動前段集会「コロナ危機と天皇制」

16時／日本キリスト教会館4F会議室(地下鉄早稲田駅)／北村

小夜、片岡万里子／主催：8・15反「靖国」行動(連絡先：090-3438-0263)

8月6日(木) ●8・6ヒロシマ平和へのつどい2020 被爆・敗戦75年今、問われる民主主義

17時30分／広島市まちづくり市民交流プラザ北棟5回研修室ABC／第一部：西岡由紀夫、尹康彦、第二部：小倉利丸／主催：同実行委員会(連絡先：090-4740-4608)

●靖国見せしめ裁判控訴審判決

13時／東京高等裁判所(地下鉄霞ヶ関駅)

8月15日(月) ●国家による『慰霊・追悼』を許すな！8・15反「靖国」行動デモ

15時／在日本韓国YMCA(JR水道橋駅・地下鉄神保町駅)

\*会場等の理由により中止・延期の可能性あり。主催者へのご確認を。



●心身ともに「集中」した作業で「完成」したけれど、充実感はいマイチ。

ワイワイやらなきゃね。(蝙蝠)

●前号よりもキビシイような気分だったけど何とかなった。慣れつつこわいね。熊さんも参加。(木寛)